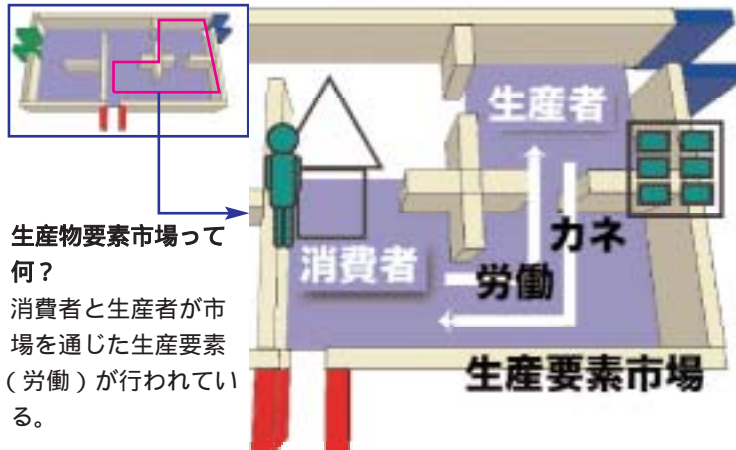


## 生産要素市場



## 労働需要曲線と労働供給曲線

労働需要曲線は、生産要素価格（賃金）の減少関数で表される。これは、価格の低下に伴って雇用量が増加するからである。

さらに、労働供給曲線は、価格の増加関数となる。これは、生産要素価格の増加に伴って供給量が増加するからである。



## 労働需要

労働需要は、生産者（企業）の利潤を最大化しようとする行動が前提となって決まる。市場で決定された賃金が低下すると、労働者をたくさん需要して生産量を増大させようとする。

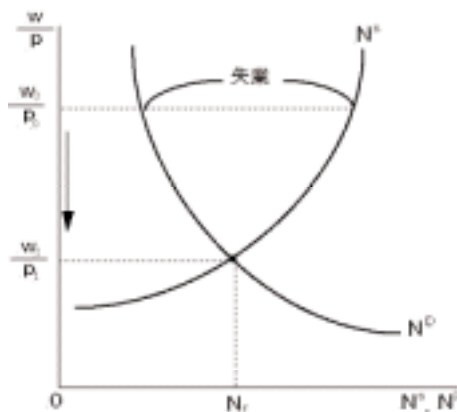
実質賃金  $\frac{w}{p}$

## 賃金は誰が決定しているか。

生産要素市場では、賃金（ $w_0/p_0$ ）がのときの労働供給量が労働需要量を超えている（超過供給）場合、それは失業の発生を表している。

しかし、価格調整メカニズムが作用すれば、賃金の低下は、雇用量を増大させ、さらに生産量を増大させることになるために失業は解消されるのである。

このような仮定により、生産要素価格（賃金）は市場の力によって決まる。



## 労働供給

労働供給は、消費者（家計）の効用を最大化しようとする行動が前提となって決まる。市場で決定された賃金が増加すると、労働時間を増やしたり、労働供給量を増やすよう行動する。

価格調整メカニズム